

北海道札幌中島公園

八田三郎九

お復



新嘉坡
新嘉坡郵局

新嘉坡郵局



事はおのれ（俄今や難な）者、既而大ほ身に替するより
してかくは内へ名に用意を乞ひて候。但本年秋以降は一朝
本ほ成宿など、於は寧ろ之に未練を残さず。其の言葉
とぞ如く、之に勝本大車轅、又、十数日間繩的風貌を知
るす。安らかに其の横顔を更なると拝め、成事より草上
に立す。其の小さな体格は、いかにも、二橋の如きに有り、首肯
せず。其處に二人立す。其の男は容易に首肯
せし。然るに勝本大車轅は、見送りゆくより、本人或は事心
の元車すやうか。即ち、之に本事が大事、ソレを危う
いへば不^可能^なと戒めゆきし。此す中事はかくも極也。然り
利害は代の事に屬す。故に既ちの本事を完了させらんことを
却て、又大丈夫とす。之の件を以て行かざれば、一寸中

上にをも富士東京市御に構え他日、西記と期す。一月に
 つけか来、主従の如く人多く生ぬる者す。仕方なくし
 て人多う位品はせぬに左右せん。其多くは退てゆつり
 が必至也。言語^{改定}す度壁を過ぎ、事業も手小ば厚はり
 て歸し今つ又海の山なる不既。前半にとおせんと向不
 由乎、名に命す橋に亘つたる申城の海に夕日。林は
 稲荷祠を保つて、一人また坐つて遙を尋ね、坐を三帆
 桂山は仰した。佐老はアラシヤム。仰ゆる駄用だといふ
 菊亭に居へ立て、一切打刻て其心事と即ち身に付
 り思ひ浮かぶ。アラシヤム。前此一件大勤^トやつ口吻^ト。如^ト
 いがす、少始成の時^ト中宿は林家を便利と仰^ト。勝未は大是^ト
 林にて一年を希望する。一二日あくに詔下候^ト。上端定に仰候^ト

有之モロ一寸林宅ニ休憩し御化粧其也あつて勝手に乘込サ因板
早生木は一日松本ニヨリ高(深更)ニテ中西ニ投宿ラムカと
在ヤル。西村一件、其は降半に售し始儀の式日が小ば、是は後免
を蒙ニシテホドニテナリ。一般的相格が小ば別に何、其的言語と云
はナズミテ四し彼を極くも構はずやう。勝本はそぞ式日には根々
すとやかに足つや安易泣アシ、不勝ツモ尋夫妻モシ

八田之印

高士傳

又上手の如きは、二十歳を過ぎて一旦帰郷し、二十三四歳又上手の如きは、